

出土文化財報告会（令和5年度）

資料

主催：東広島市教育委員会

会場：東広島市市民文化センター研修室1・2

日時：令和6年2月11日（日）13時00分～

報告遺跡名

◆ 横田1号遺跡（西条町寺家）

◆ 郷1号遺跡（高屋町郷）

◆ 美ノ越1号遺跡・美ノ越第1号古墳（八本松町正力）

◆ 沖の城跡（安芸津町風早）

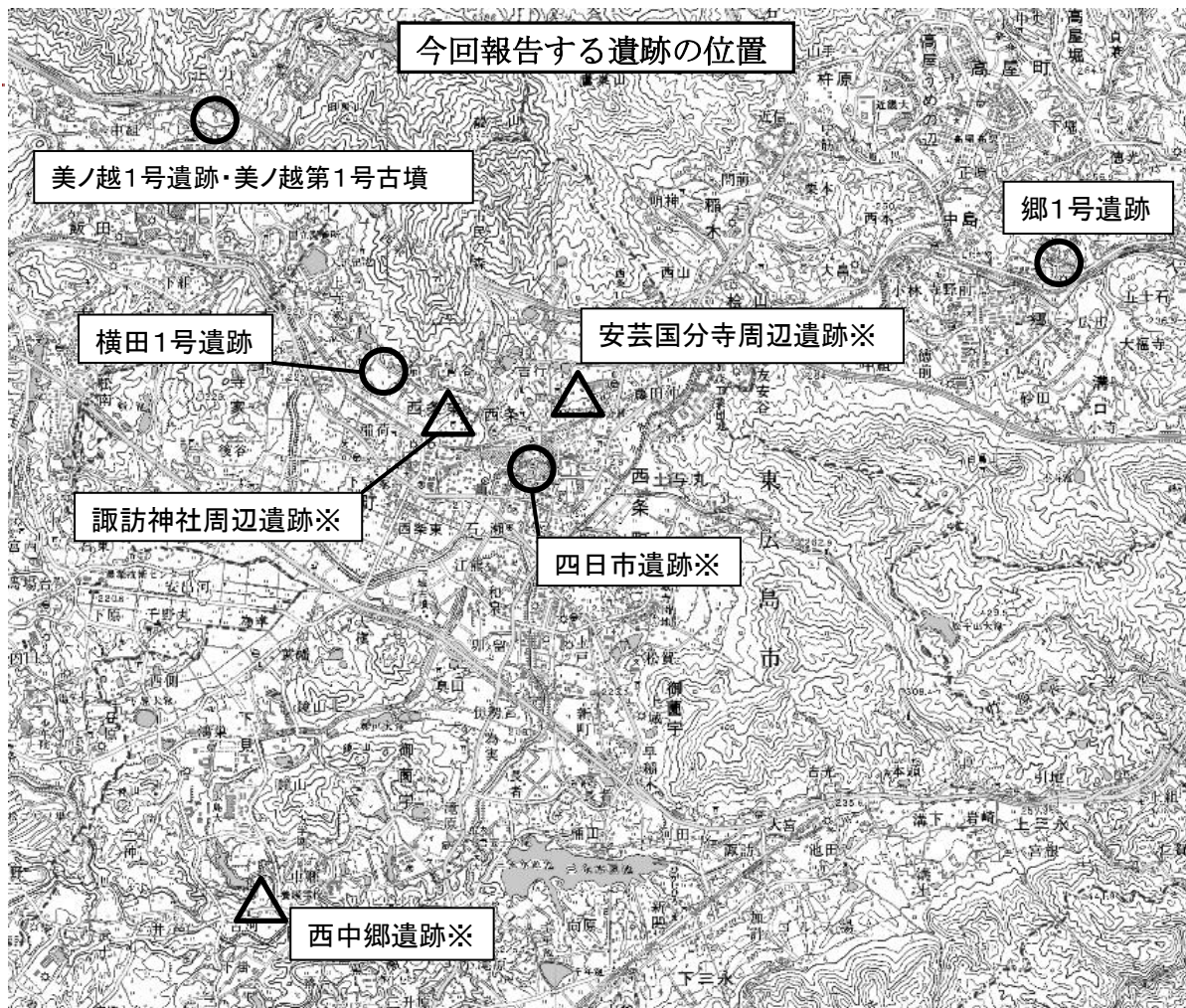
誌上報告

◆ 諏訪神社周辺遺跡（西条東北町）

◆ 安芸国分寺周辺遺跡（西条町吉行）

◆ 西中郷遺跡（西条町田口）

◆ 四日市遺跡（西条上市町）



※諏訪神社周辺遺跡、安芸国分寺周辺遺跡、西中郷遺跡、四日市遺跡については紙上報告のみ

横田1号遺跡の発掘調査（第2次）報告

（公財）広島県教育事業団埋蔵文化財調査室

調査研究員 村田 晋

はじめに

横田1号遺跡は、東広島市西条町寺家字横田に所在する。南向きの丘陵上に営まれた主に弥生時代を中心とする集落跡であることがわかっていた。都市計画道路吉行飯田線の建設工事に伴い、昨年度・今年度と続けて発掘調査を実施した。今回は、令和5年度調査の成果について報告する。調査期間は令和5年10月10日～令和6年2月9日、調査面積は1,100 m²である。

昨年度の調査区に隣接する、おおむね45×24m、北西～南東方向に長い範囲が調査区となった。調査前の地形は、北西に向けて段々と下降する地形で、各段の上面は平坦だった。畑等の利用に伴い、改変された地形であると考えられた。

調査の成果

350基を超える数の遺構を確認した。竪穴建物跡、貯蔵穴、溝のほか、大半は小さな穴（ピット）や柱穴などの小型遺構だった。調査区を1～6区に分け、主な遺構を紹介する。

【1区】

昨年度調査区のすぐ西隣りで、高さも同じ。主に弥生時代の遺構を確認した。

竪穴建物跡 1基を検出。上端は円形（直径約2.8m）、下端は隅丸方形（一辺約2m）。深さ約70cm。壁沿いの溝、貼り床などはなく、簡単なつくり。弥生時代前期の土器が出土。貯蔵穴が隣に位置。

貯蔵穴 上端が円形のタイプ、四角形のタイプがある。深さ70cm以内。円形は弥生前期、四角形は弥生後期か。

土坑 楕円形の浅い穴の底に、3つの小さな穴。過去の調査でも確認。

掘立柱建物跡 柱穴のうち、きれいに並ぶものは同じ建物の柱跡と認定できた。

【2区】

1区から段を降りて西隣の区画。江戸時代の遺構が目立つ。

柱穴 多くが分布。西の段差沿いに並ぶ柱穴列、小規模な掘立柱建物跡を検出。

溝 東の段差沿いにまっすぐ掘られていた。幅 5,60cm、深さ 20 cm 程度。江戸時代の焼き物類を多く包含。

埋甕 2 基を検出。直径 40～45 cm 程度の素焼き甕を埋めたもの。肥料を入れたか。

【3～5区】

調査前から地表面にみえた里道、段に区切られた範囲。検出遺構は少数。

北東部の四角い区画では、土坑や溝を検出した。炭・骨・礫を含んだ土坑が含まれる。

骨は人骨ではなかった。動物の種類や、年代については今後分析で解明したい。

全体的には、中心となる時代は江戸時代以降と推測。

【6区】

本来の地形は谷であったことを確認。弥生時代中・後期土器を含む黒色土が厚く堆積。

大きな遺構はなく、小さな穴（ピット）が密集していた。

おわりに

今回は弥生時代と江戸時代以降、大きく二つの時期に分かれる遺構群を確認した。

◎弥生時代の集落跡（1・2・6区中心）

- ・前期の竪穴建物・貯蔵穴のセットほか

 - 掘立柱建物、土坑などを検出。

- ・中期・後期の遺構も含まれる。

◎江戸時代の集落跡（2～5区中心）

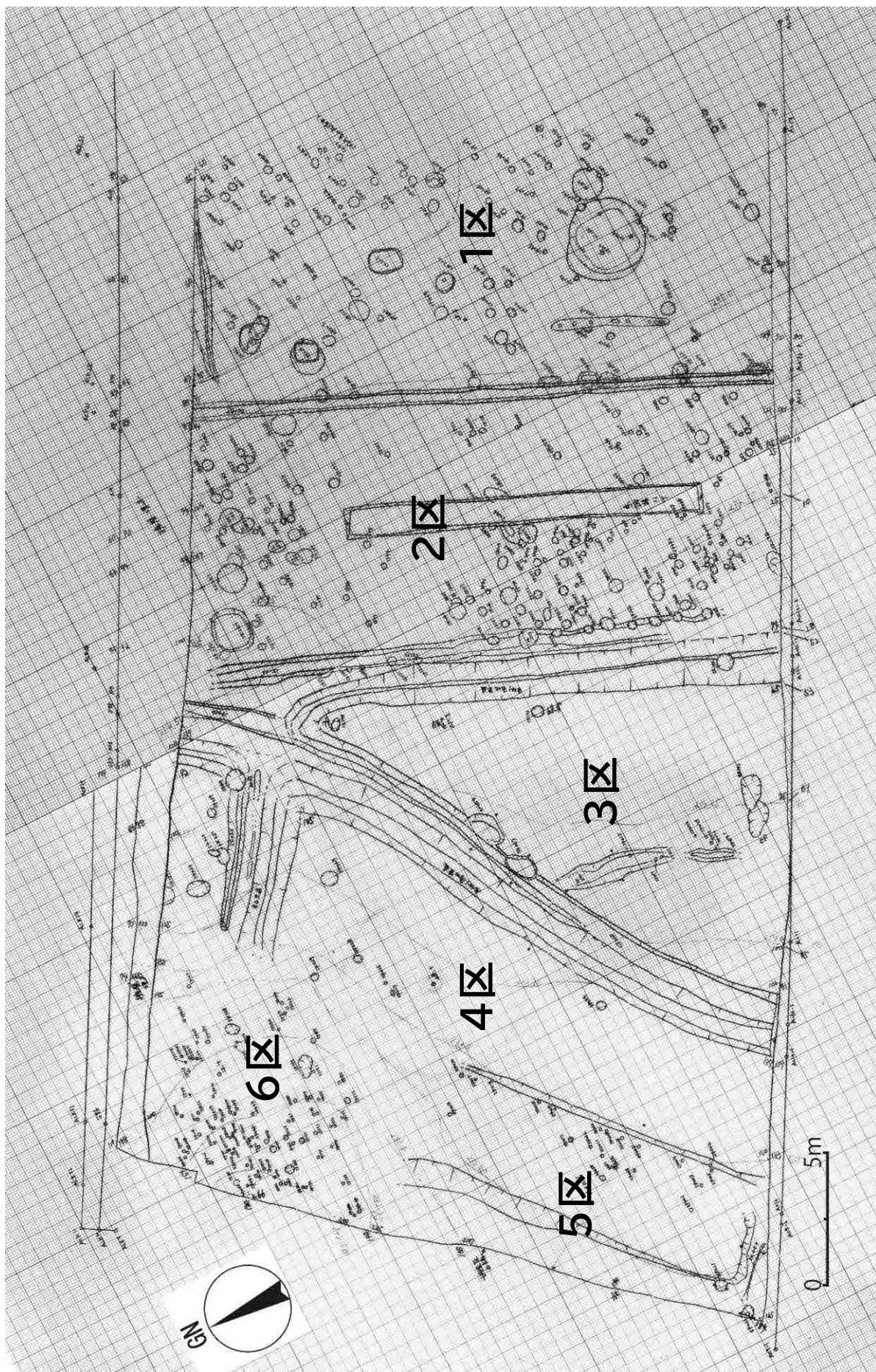
- ・溝、柱穴列、道の配置と地形に強い関係

- ・現在まで残っていた段々地形、里道も、

 - 江戸時代には造られていた可能性。

調査が終了したばかりで、報告内容にも不確定な部分が多い。

詳細は、今後の整理作業で検討していく予定である。



横田 1 号遺跡遺構配置図



上段：1区竪穴建物跡（上端直径約2.8m・深さ約0.7m。中央の壁は土層観察用畦）

中段：1区貯蔵穴（左直径約1.1m・深さ約0.7m、右直径約1.3m、深さ約0.3m）

下左：2区埋甕（直径約0.4m）、下右：4区骨出土土坑（長さ約0.9m、深さ約0.2m）

郷1号遺跡の発掘調査

東広島市教育委員会生涯学習部文化課調査係
（東広島市出土文化財管理センター）佐武 壮太

調査日：2023（令和5年）年9月20日～12月22日

所在地：東広島市高屋町郷1206番4、1206番7、1210番1の各一部

調査主体：東広島市教育委員会 文化課 調査係 調査原因：急傾斜地崩壊対策工事

調査概要とみつかった遺構

郷1号遺跡は、主要地方道東広島本郷忠海線沿いの独立丘陵上に立地する、弥生時代～古墳時代の遺跡です。

過去、平成20年6月～同年8月まで実施した同遺跡の発掘調査では弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代の古墳等を検出しています。

急傾斜地崩壊対策工事に伴う、今回の発掘調査では、弥生時代の土器を多量に含む性格不明遺構と包含層、柱穴が確認されたほか、縄文時代の可能性がある石器が出土しました。

まとめ

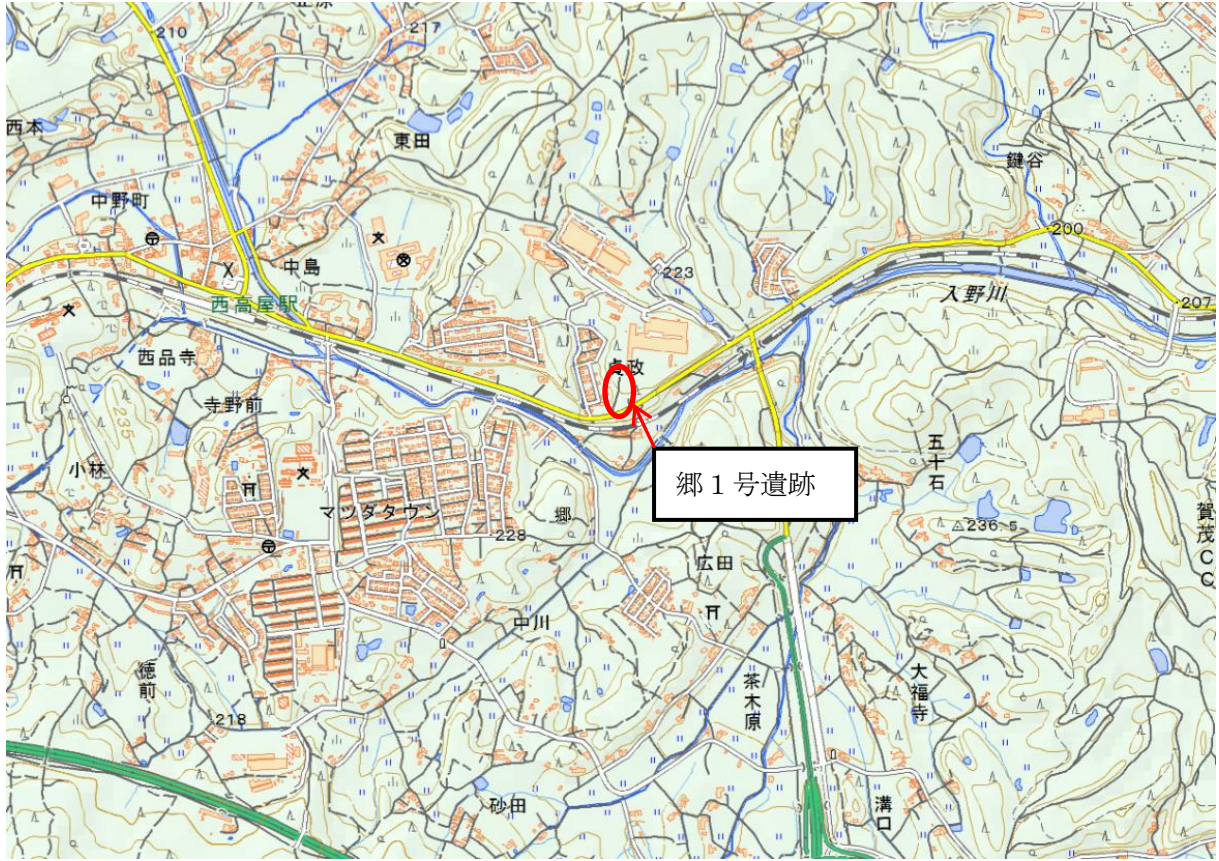
郷1号遺跡では、平成20年の調査で、竪穴住居跡2軒、古墳2基、土坑5、溝状遺構3、土塁1、性格不明遺構1、柱穴が検出されています。

これらは弥生時代後期に属するものと思われます。

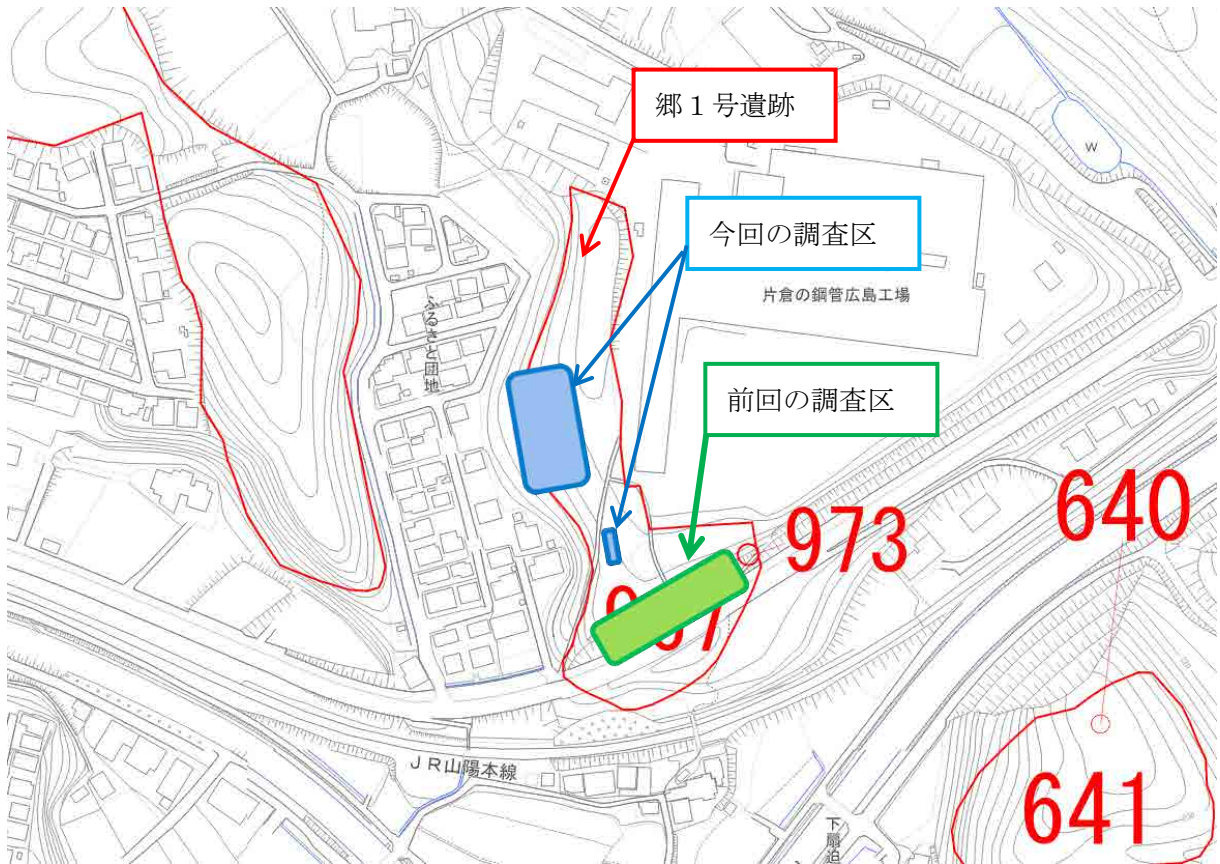
2度目となる今回の調査では、独立丘陵の西側山腹部分を発掘しましたが、住居跡、古墳、土坑等は検出されませんでした。

調査区北側で、弥生時代の土器を多量に含む包含層が検出され、調査区南側では柱穴、縄文時代のものと思われるスクレイパーが検出されています。

今回の調査区は郷1号遺跡の西側約730㎡を調査しました。調査範囲の地形は傾斜地が大部分を占めており、住居跡、古墳等は確認できませんでしたが、調査区北側で検出された包含層に含まれる土器をみると、弥生時代後期の土器がほとんどを占めています。平成20年の調査で約1,000㎡の調査範囲内に密集した状態で遺構が確認された結果と合わせ、郷1号遺跡の東側の尾根部分には弥生時代後期に大きな集落が存在していたとみられます。



調査調査位置図

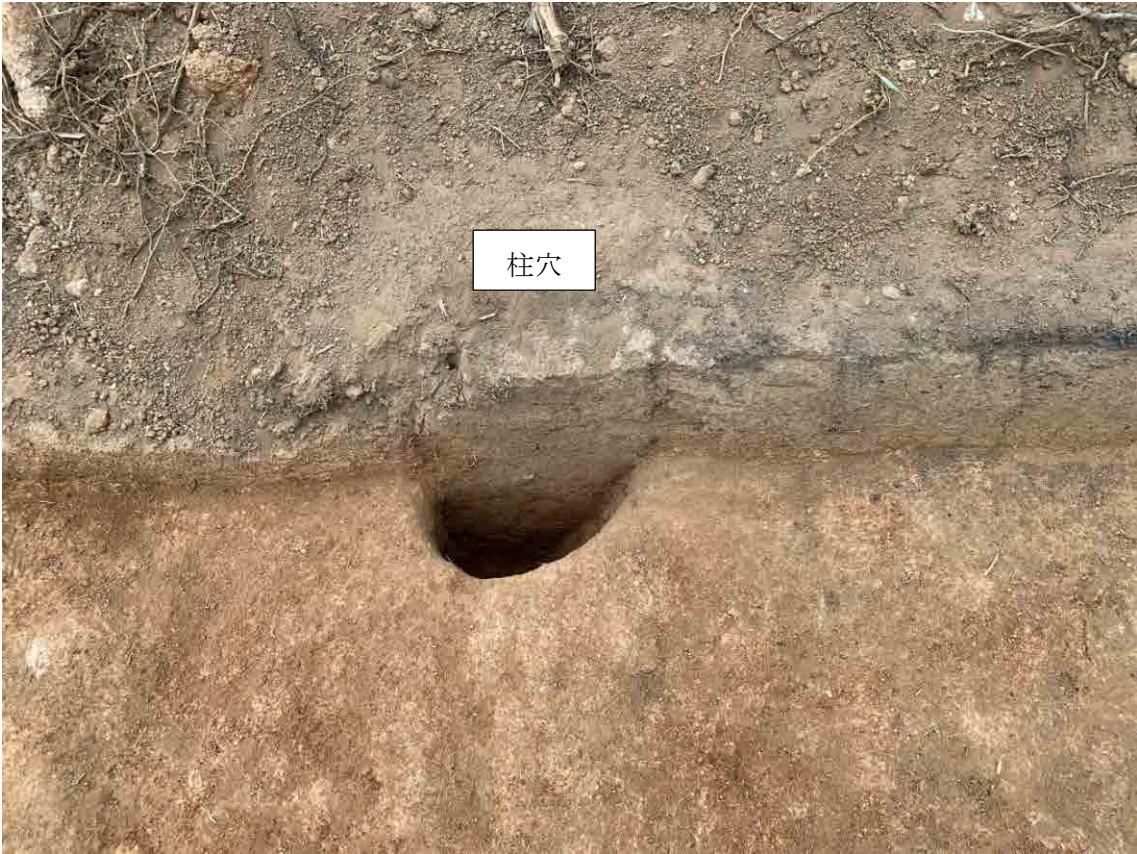




性格不明遺構・北側調査区（東から）



北側調査区完掘状況（北から）



柱穴・南側調査区（南から）



南側調査区完掘状況（北から）

遺跡要項

遺跡名：美ノ越1号遺跡・美ノ越第1号古墳

調査業務名：幹線市道整備事業美ノ越1号遺跡ほか発掘調査

調査指導：東広島市教育委員会

調査担当：株式会社島田組

所在地：東広島市八本松町正力

調査面積：1100㎡

調査期間：令和5年8月～令和5年12月

はじめに

当遺跡は、南城山（標高560m）の南裾から約200m南の独立丘陵頂部（標高280.5m）に位置する。周辺の遺跡として同じ丘陵の北東に位置する碓神社裏古墳（古墳時代中期）、碓神社古墓（中世）、北西約500mに光堂寺古墳群（古墳時代後期）が点在する。

当遺跡は『賀茂郡史』に「みの越とよぶあたりにも箱式石棺墓がみられる」として紹介されその存在は知られていた。令和4年度の試掘調査の結果、調査地東側の古墳主体部から鉄刀、須恵器片、西側には墓石と思われる板石類、検出土坑から炭化物、火葬骨片が出土したことから、美ノ越1号遺跡ならびに美ノ越第1号古墳として史跡登録された。

調査は北東から南西方向の尾根上に沿ってメインベルトを設定し、メインベルトの西側と中央部付近に直交するベルトを2本、東側には第1号古墳に十字ベルトを設定することから開始した。

調査成果

美ノ越第1号古墳

墳丘の北東部および北西部は地山から大きく抉れるように崩落しており、その影響と後世の攪乱により墳丘頂部は一部を残して大部分が箱式石棺床面近くまで深く削平されていることが判明した。

主体部中心から約4.5m北側で斜面となり、同じく南から東側にかけて主体部から約4.5mの位置で墳丘裾と考えられる傾斜角度の変化が認められるため、墳丘規模は直径9m程度の円墳であったと想定する。

箱式石棺は長軸約2.65m、短軸約1.3mを測り、四辺に石材据付のために掘られた幅17cmの溝が巡る。石棺材を据えた際の板石の1枚の大きさ、枚数を確認できる痕跡は認められなかった。

墳丘北東部の地山崩落は箱式石棺部にまで及んでおり、石棺掘り方の東側隅が大きく抉られていた。石棺床面には厚さ約6cmの黄橙色粘土が貼られていた。床面は南東から北西へ緩く傾斜する。石棺材は原位置に遺存せず全て抜き取られ、床面に後世の攪乱の際に混入した拳大から人頭大の角礫片が刺さっていた。

また須恵器片が粘土床中から数片出土したが角礫と同様に攪乱を受けた際に混入したものであると考える。

美ノ越1号遺跡

美ノ越第1号墳の南西脇の斜面で表土下から自然石を方形に配置した集石遺構、中央部から西部の高まりで表土掘削中に大量の板石が出土した。石材は検出面に立てて据えている石材は立石、立石の前方に倒して配する扁平な石材を拝石とし、墓を構成するものとした。立石にはいずれも文字は刻まれてはいないが上述の碓神社古墓も何も刻まれてはおらず墓標の形態として共通している。

尾根上のメインベルト以北での遺構密度は低く、多くがメインベルト以南の斜面地で検出した。また立石と拝石の配置方向はすべて里道側に正対する配置である。集石立石拝石の直下からは火葬墓と思われる土坑が検出されたものと下部遺構の存在しないものが確認された。また中央部に近年まで営まれた墓跡を検出した。



写真1 調査現場遠景 南城山（左）（南西から）



写真2 調査現場（真上から画面上が北東）



写真3 第1号古墳 (南東から)



写真5 西側板石類検出状況 (南東から)



写真7 集石検出状況 (南から)



写真9 近現代テラス検出状況 (南西から)



写真4 石棺掘方検出状況 (南から)



写真6 左から拝石・立石・墓坑



写真8 集石断面 (東から)



写真10 現代墓坑断面 (西から)



写真11 第1号古墳出土遺物



写真12 火葬墓坑出土金属製品

まとめ

- ①調査地北東部に箱式石棺を主体部を持つ円墳と中央以西で近世から現代の墓域を確認した。
 - ②古墳は大部分で崩落と削平を受け墳丘盛土は遺存せず、箱式石棺掘方と粘土貼床を検出した。
 - ③近世墓群は、火葬墓が主体であるが一部墓坑の伴わないものが存在する。
 - 火葬単墓制 墓坑上部に石材を配する。(墓坑のみのものも本来上部に石材を配していた可能性が高い) 石材の配置形態で2類
 - 両墓制 遺体を埋葬した「埋め墓」と、墓参のための遺体の無い「詣り墓」
立石・拝石の下部に墓坑のないものが該当する。
- 埋め墓と詣り墓が混在する点は、当地域の特徴なのか今後も地域の墓制を検討するうえで周辺地域での資料の増加が望まれる。

沖の城跡の発掘調査報告

(公財) 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室

調査研究員 岸本晴菜

はじめに

沖の城跡は東広島市安芸津町風早に所在します。三津大川の西側で三津湾に向けて南に延びる丘陵の先端、標高 21m に位置しています。一般国道 185 号（安芸津バイパス）改築に伴い、城跡の一部とその北に位置する船繋場と推定される池が工事範囲となったことから、3734.7 m²を対象に令和5年6月26日から12月22日の期間で発掘調査を行いました。

本城から谷を挟んだ西側の尾根には中世の城館跡である東城が所在し、さらに蛇道川を挟んだ西側にも中世の城館跡の西城が所在します。また、本城と同じ丘陵上には弥生時代の遺跡とされる蕨迫遺跡や、丘陵の下には近世～近代にかけての塩田跡である水除浜塩田跡があります。

調査の成果

(1) 城跡

城跡は調査前の段階から、段状になっていることが確認でき、最上段を主郭・主郭下段、以下を2～5段目として調査を実施しました。調査の結果、主郭・主郭下段を含めたいずれの段も、基盤層（凝灰岩盤及び凝灰岩風化土）の上に近現代の陶磁器片を含む耕作土が15～20 cm程堆積している状況が観察できました。耕作土上面と基盤層上面で遺構検出を試みましたが、基盤層の直上でも明確に遺構と断定できる痕跡は1か所のみに残ったことから、後世の畑作により削平を受けているものと考えられます。

遺構は主郭下段において、基盤層を掘り込んだ直径 30 cm の不定形土坑を1基確認しました。土坑内の埋土は1 cm程と浅く、炭化物が多く含まれていました。遺物が出土していないため、遺構の時期は不明です。

城跡で出土した遺物は近現代の陶磁器類が大半であり、城が機能していたと考えられる時期の遺物は出土していません。

(2) 船繋場跡

城跡の北に位置する池の調査では、重機で近現代の池の堆積層（南半部分）を除去し精

査したところ、池底の泥堆積の下に砂層の広がりを確認することができました。また、池の北面から西面にかけて、根石下に桐木をかませた石垣を確認しました。この石垣に伴う遺物は出土していないため、時期は不明です。

池の南側では、舌状に広がる高まり（S X 1）が確認できました。土層を観察したところ、北に向かって急傾斜している地山に沿って上段の土が崩落し堆積している様子がうかがえました。この崩落土で形成された高まりの裾には砂層が堆積しており、砂層中からは中世と考えられる舟形木製品や硯片が出土しました。

池内では舟形木製品や匙、漆椀、下駄などの木製品のほか、中世と考えられる硯、弥生土器片等が出土しました。また、少量ですが旧石器時代の石核・台形様石器、縄文時代の石匙などの石器も出土しています。

おわりに

今回の調査では、城跡は後世の削平により建物遺構や柵列、城に付随する竪堀、切岸等の遺構は確認できず、城に伴うと考えられる遺物も出土していません。また、船繋場と推定された池の調査についても、想定された岩礁ピットや木杭は検出されず、船繋場が存在していたかは不明です。しかし、砂層の広がりや砂の水性堆積が観察されたこと、また、中世と考えられる舟形木製品が出土したことから、江戸後期の『芸藩通志』や『風早村国郡志書出帳』に記載されているように、調査地周辺は古くから入江状の谷部に水が入り込んでおり、船の往来も想定される環境であったと考えられます。



空中写真（北から）



沖の城跡周辺地形図（グレー網掛けが調査範囲）

城跡



主郭・主郭下段 完掘（北から）



S K 1 土層断面（南西から）

船繋場



池西側 胴木検出状況（東から）



池西側胴木検出状況（北から）



S X 1 検出状況（東から）



作業風景